



諫早湾干拓地では、大規模環境保全型農業が推進されていますが、営農開始から10年以上経過しており、窒素施肥量の削減とともに、リン酸を土壌中に蓄積させない技術確立を進めています。

これまでの研究で、諫早湾干拓地の主要品目であるタマネギの収量を高め、可給態リン酸を作土に蓄積させない施用量は10kg当たり10kgであることが判明しています。

そこで、さらに圃場（ほじょう）へのリン酸施肥を削減するため、育苗後期にリン酸液を葉面散布する施肥方法を検討しました。

定植7日と3日前の計2回、1%リン酸液を育苗トレ

1当たり1gの葉面散布すると、苗重は重くなり、商品収量を高めるとともに、可給態リン酸を作土に蓄積させないことが分かりました。加え

諫早湾干拓地のタマネギ栽培

育苗後期にリン酸液 葉面散布し肥効向上

て、葉面散布処理は10kg当たりの肥料施用量が本圃施用より少なくなり、肥料費を約60%削減することが期待できます。

(長崎県農林技術開発セン

タマネギでのリン酸施用方法の違いにおける苗の生育量、商品収量、作土の可給態リン酸含有量および肥料費

試験区	リン酸施用の有無		定植時の苗重 (g)	タマネギの商品収量 (kg/10a)	本圃作土の可給態リン酸含量 (mg/100g乾土)	リン酸施用量 (kg/10a)	肥料施用量 (kg/10a)	肥料費 (¥/10a)
	苗	本圃						
葉面散布	○	×	2.4	7367	23	1.2	2.4	2856
本圃施用	×	○	1.9	6780	21	10.0	57.1	7663

供試肥料：葉面散布：OATハウス9号（P51%）、本圃施用：過リン酸石灰（P17.5%）
肥料費：2023年8月現在、想定される販売価格で試算

ター畑作営農研究部門干拓営農研究室主任研究員 清水マ